

ふくおかAL通信

～県立学校の教室から～

第6号
(H29.10)

福岡県立学校
新たな学び
プロジェクト

福岡県立ありあけ新世高等学校

～地域から愛され、信頼され、誇りとなる日本一の総合学科をつくる～

第6号は福岡県立ありあけ新世高等学校の取組の紹介です。ありあけ新世高等学校は「普通科」と「専門学科」の枠を超え、生徒の個性を生かした主体的な学習を重視する「総合学科」を設置する筑後地区唯一の県立高校です。平成29年度に創立15周年を迎え、より生徒主体の活動的な学校を目指し特にキャリア教育を重視しており、「主体的に行動し、調べる力、聞く力、まとめる力、発表する力などを身に付けた生徒」の育成のために特色ある教育活動を行っています。

1 目指す方向性

<学校ビジョン>

新世生よ、人生のプロデューサーたれ！

「自分にできることは何か？」と意識高く問いかけ、若さと強い精神力で、困難に立ち向かい、「なりたい自分」をしっかり見すえて努力し、場をわかまえ、相手を重んじた言動で心深く通じ合い、人生を自らの手で仲間とともに切り拓け。

我が国に脈々と流れる「誠実・勤勉・思いやりの心」を受け継ぎ、地域に根ざして活躍することに静かな誇りを持って。

<生徒行動指針>

- (1) 笑顔で明るく、大きな声で挨拶をしよう
- (2) 失敗を恐れず、自ら進んで行動しよう
- (3) 自分の意見を持ち、相手に伝えることができるようになろう
- (4) 自分たちの力で企画・運営していく実行力を身につけよう
- (5) いろいろなことにチャレンジし、自分の夢や道を拓こう

2 課題解決型体験学習を重視したキャリア教育

キャリア教育の特色は、地域貢献を柱とする充実した課題解決型体験学習による生徒の主体性を育成しているところです。その中心は、1年次の「産業社会と人間」と、2・3年次の「総合的な学習の時間」です。体験学習の教育効果を高めるために、経験知の積み重ねと、その経験知の共有・発信を計画的に行っています。具体的には、1年次はグループ学習による課題解決型体験学習を行います。2・3年次は、各自の進路や興味関心に関する一人1テーマに取り組み、成果を全員が発表します。さらに顕著な成果を出した代表生徒が総合学科発表会で披露しています。

3 授業改善の取組

- (1) 公開授業と職員研修（平成29年度の計画 一部予定）

平成29年7月、10月 公開授業週間 テーマ「アクティブ・ラーニングを取り入れた授業」

※10月には研究授業大会を実施

平成28年度は指導助言者として県教育センターの国語、英語、数学、商業の指導主事を招聘

平成29年8月 職員研修「観点別評価・アクティブ・ラーニングについて」

平成30年2月 職員研修「各教科における観点別評価・授業改善の取組について」

(2) 「授業に関する自己診断」

今年度末に全教員を対象にアンケート形式の自己診断を実施する予定です。「ペア学習やグループ学習など、協働的な学び合いの場を設けている」「事前にテーマを与え、生徒が自分の考えや意見を発表できる場を設けている」等の項目を設定し、アクティブ・ラーニングの視点からも授業を振り返ることができる内容になっています。

4 総合学科発表会

(1) 読み原稿なしの発表

この発表会は、開校当初から実施している最大の学校行事で3年間のキャリア教育の集大成です。毎年12月に大牟田文化会館の大ホールで実施されています。平成28年度は「自分の目で福島の“今”を見て、何ができるのかを考えたい」という思いを参加者に伝えるために、福島支援ボランティアの報告も行われました。

中でも特徴的なのは伝統として受け継がれている読み原稿なしの発表です。代表者はプレゼンテーションソフトを用いて10～15分間の発表を行います。読み原稿は一切ありませんが、大牟田文化会館の広い会場全体に向けて語りかけるように、終始流れるように発表が進んでいきます。

総合学科発表会だけではなく、日常の学校生活の中で自分の意見を述べる場面においても、読み原稿は一切ありません。最初は2、3分の発表から始め、徐々に時間を延ばしていくうちに、生徒達は徐々に上達していきます。1年次の生徒達も、先輩達に倣って全く抵抗なく原稿無しの発表に取り組んでいきます。この経験を通して、自分の考えを自分の言葉で、わかりやすく伝える力が身に付きま

(2) 地域への発信

平成28年度は自立と協働を学ぶ体験活動報告として、「大牟田よかこマップ」「大牟田市動物園支援事業」についての発表や、『自ら行動 地域に笑顔 新世ボランティア』をスローガンとした、ボランティア活動報告が行われました。てっぱん部をはじめ、多くの生徒達が様々な地域のイベントやボランティア活動に参加し、地域の方々から愛され、信頼され、誇りとされています。在校生がそれぞれの母校を総合学科発表会の案内状を持参して訪問するため、在校生の保護者だけではなく、近隣の中学校の先生方や保護者も多く参加します。



5 課題解決型体験学習の成果

生徒の主体性が育まれ、大学進学後や社会に出てからの評価が大いに高まっています。課題研究発表会に他人事ではなく自分事として意欲的に取り組む生徒が増え、発表する力とともに聞く力も育っています。また、協働して行事を成功させる体験から生徒達の中に連帯感が生まれています。日常の授業においても課題解決型学習の視点が入っており、毎時間の取組の積み重ねが生徒達の著しい成長を支えています。

6 今後に向けて

次の3点について、検討等を行っていきたいと考えています。

- 観点別評価の導入に向けた職員研修の充実。
- 今年度導入された県内の県立高校初のテレビ会議システムを効果的に活用した取組の検討。
- 総合学科発表会のさらなる充実を含めて、学校活性化のための新たな取組の検討。